



deleteC がん治療研究公募 2026

1テーマ寄付額500万円上限

4テーマ

募集期間・応募方法

募集期間：**4/7 (火) 00:00 ~ 6/3 (水) 23:59**

時間厳守

応募方法：deleteC公募選考の特設ホームページをご確認ください。
<https://www.delete-c.com/medical-research>



募集テーマ

がんを治せる病気にすることを目標とし、次の新たな一歩を大きく踏み出そうとする研究・プロジェクトをdeleteCは「**立ち上がり研究**」と呼び、市民の力で応援します。
募集テーマは、以下のようなものを想定しますが、これらに限るものではありません。

- **既存の概念を変える**：既存の学術体系を変革・転換させることを狙った挑戦的研究・プロジェクト
- **基礎の知見を臨床へつなぐ**：基礎研究の成果を臨床応用・社会実装へ展開するための橋渡し研究・臨床研究
- **これから新たに始まる**：資金が十分でない野心的な新しい治療開発につながる研究・プロジェクト

※すでに十分な外部資金を得ている研究や、成熟段階にある研究は、本公募の趣旨と異なる場合があります。

応募条件

- 医療関係者・研究者であること
- 啓発動画などのコンテンツ作成のための取材にご協力いただけること
- 2027年2月上旬開催予定の授賞式にご参加いただけること
- 受賞1年半後に、寄付・啓発対象テーマの進捗・成果と寄付金用途をご報告いただけること
- 研究発表の際にはdeleteCからの支援を謝辞に表記いただけること

deleteCとは

みんなの力で、がんを治せる病気に。そんな未来を1日でも早く手繰り寄せたい。



ふだんの暮らしの中でがん治療研究を応援できる仕組みをつくり、がん治療研究への寄付と啓発を通じて、1日でも早く「がんを治せる病気にする日」を手繰り寄せることを目的に、2019年に設立され2022年に認定NPO法人となりました。
がん治療研究を「希望の種」と捉え、市民の応援を原動力として、「啓発 → アクション → 立ち上がり研究への支援」というサイクルを通じて、deleteCは、研究の立ち上りを支え、研究が次の一歩を踏み出すことを後押しします。

選考スケジュール・選考方法

医療選考委員・企業選考委員・deleteC選考委員により、選考しています

4月7日～6月3日

6月4日～8月下旬

9月1日～9月5日

9月下旬

2月上旬

募集期間

書類選考

Web面接

最終選考寄付
啓発対象者決定

授賞式・発表

がん治療研究専門家の視点で科学性を評価
医療選考委員



公益財団法人がん研究会
研究本部 本部長
国立がん研究センター東病院
名誉院長
大津 敦



一般社団法人
CSRプロジェクト
代表理事
桜井 なおみ



埼玉医科大学国際医療センター
「癌」人科腫瘍科 客員教授
国際医療福祉大学 産婦人科
特任教授
藤原 恵一



慶應義塾大学医学部
がんゲノム医療センター
センター長
西原 広史



社会福祉法人 博愛会
淀川大学医学部
院長
大野 真司



愛知癌がんセンター研究所
がん療育治療19分野 分野長
病院ゲノム医療センター
センター長
衣斐 寛倫



京都大学大学院医学研究科
早期医療科学
教授
中島 貴子



千葉県立総合医療センター 院長
淀川大学医学部
特別招聘研究教授
光富 徹哉



東京大学医学部研究所附属病院
腫瘍・総合内科 教授
東京大学医学部附属病院
腫瘍センター長
朴成和

順不同・敬称略

市民の視点で研究にかける情熱等を評価
企業選考委員・deleteC選考委員



活動に参加する企業の担当者やdeleteCの活動を支える市民が参加

市民も参加する授賞式
deleteC 2027 -HOPE-



研究を分かりやすく紹介する動画など広報コンテンツも公開

2026年4月1日時点

評価のポイントおよび申請書記載項目

評価のポイント（下記の6点を中心に、書類選考、Web面接において評価を行います。）

- deleteCを通じた市民の支援が、研究・プロジェクトの次の新たな一步に重要な役割をもつ
- 市民が応援する意義・希望を感じられる
- 研究の新規性・独自性
- 研究計画妥当性
- 研究遂行力
- 論理性・科学的妥当性

申請書記載項目：項目に対する記載内容に基づき、選考委員による書類選考・Web面接をおこないます。

- 研究テーマ名
- 研究の概要
(研究の背景・目的・研究デザイン・研究の背景と課題・研究計画・使用用途・その他)
- 研究のアピールポイント（市民にも理解できる内容にて記載）
- deleteCからの希望支援内容・支援によって実現できること
- 市民が応援する意義・研究にかける想い・支援者へのメッセージ など

ご応募はこちらから



【お願い】書類選考に通過した際には、Web面接を実施します。
応募フォームにおいてWeb面接の希望日時をお伺いしておりますので、ご回答をお願いします。

deleteCの寄付実績

2019年度（2020年2月）以降、毎年授賞式「deleteC -HOPE-」を開催し、計6,000万円以上の寄付と啓発にて医療者・研究者を応援しています。



大阪大学大学院医学系研究科
消化器内科学 助教
牧野 祐紀

嚢胞性前癌病変を標的とした膵癌超早期治療の開発



東京科学大学大学院医歯学総合研究科
人体病理学分野 非常勤講師
児玉 真

局所1型IFN活性化を基盤とした新規癌免疫療法



群馬大学 重粒子線医学推進機構
重粒子線医学研究センター
講師
尾池 貴洋

日本がリードする革新的がん治療「重粒子線治療」の個別最適化を目指した基礎・臨床研究



関西医科大学附属光免疫医学研究所
腫瘍病理学部門
学長特命教授
近藤英作

次世代創薬モダリティ、ペプチドドラッグコンジュゲート PDC、ナノ化学融合ペプチド技術で挑む膵がん治療



東京大学 大学院医学系研究科 衛生学
准教授
加藤洋人

がん組織からがん治療抗体を見つける！
～がん患者から未来の臨床応用までバトン
を繋ぐ～



愛知県がんセンター ゲノム医療センター
がんゲノム医療室・乳腺科 医長
能澤一樹

日本のドラッグロスをなくす！
周術期乳癌を対象とした新規薬剤開発に
関する持続可能なプラットフォーム試験
（S-FACT 試験：JCOG2205）



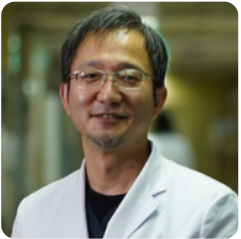
愛知県がんセンター 薬物療法部
医長
谷口浩也

がんゲノム医療難民を減らせ！
～かかりつけ病院と協力して行う完全リ
モート試験の実施～



兵庫県立がんセンター
腫瘍内科部長
松本光史

低再発リスクI期ER/and or PgR陽性乳
癌への温存術後残存乳房照射省略を検証
する研究（NRG BR-007試験：DEBRA）



近畿大学 医学部 腫瘍内科部門
医学部講師
川上尚人

MSI-H胃がんに対する1次
治療としてのニボルマブ+イピリムマブ併
用療法第II相試験（NO LIMIT試験）



国立がん研究センター中央病院
小児腫瘍科/臨床研究支援部門
外来研究員
石丸紗恵

小児がんに対する国際共同試験実施体制の
構築～ドラッグ・ラグ解消に向けて～



慶応義塾大学医学部
先端医学研究所 特任助教
大槻雄士

がん特異的代謝機構に基づく
新規放射線治療併用増感剤の研究開発



東京大学医科学研究所附属病院
緩和医療・先端臨床腫瘍科
藤原紀子

臨床研究への看護師の参画について～研究
参加者を守り、研究の質向上のためのリサ
ーチナーズの普及・啓発



埼玉医科大学国際医療センター
婦人科腫瘍科 助教
藪野彰

早期子宮頸がんに対するセンチネルリン
パ節生検併用による侵襲の軽減とQOL改
善を目指した標準治療法確立のための国
際共同第III相試験



名古屋大学医学部附属病院
ゲノム医療センター病院 講師
奥野友介

網羅的遺伝子解析による
小児がんの治療法成績改善

※受賞時の所属を記載しています